

口は健康のもと Vol.92

いろいろある顎関節症の原因 その1

顎関節症の原因は悪い咬み合わせにあると言われてきました。しかし、研究が進むにつれて顎関節症の原因は複数あり、それらが複合して発症することが分かりました。発症因子としては、ブラキシズム（歯ぎしり）、ストレス、片側の咀嚼、顎や筋肉に負担をかける習慣、悪い咬み合わせ、歯の治療などで大きく口を開けた時、顎や頭頸部の強打による顎関節や靭帯の損傷、などが考えられています。

その幾つかを解説します。

まずブラキシズムですが、これは歯ぎしりのことで、無意識のうちに歯をこすりあわせたり、くいしばる状態をいいます。一般的に歯ぎしりは歯をこすりあわせたとき、キーキーという音がすることを言います。意識的に歯を咬みしめたときの4倍の力が発生しているので、筋肉や顎関節に過度の負担がかかります。くいしばりは肉体労働や仕事などに集中しているとき、あるいは就寝中に多くあらわれます。音がしないため気がつきにくい病態です。

このブラキシズムは部分入れ歯や上下の総入れ歯を入れている人にもおこりますので、自分にそういうことがないか思い出してください。



奥羽大学歯学部附属病院 総合歯科

講師 竹内 操

